

いちよう並木読者アンケートにご協力ください

お答えいただいた方の中から、①**科学館**(P13、16、17参照)招待券を5組10人に、
②**「こどもとたのしむ能狂言」**(I「狂言」2/17、もしくはII「能」2/24)(P27参照)の親子ペアチケットを各5組10人(計10組20人)にプレゼントします。
ハガキに希望のプレゼント名(ひとつ)、下記の質問項目の答えと、住所、名前、年齢を記入し、下記宛先へ。
※②は「狂言」もしくは「能」のいずれかを明記する。

質問項目 ① 「いちよう並木」をどの程度お読みになっていますか?

ア. 毎号読んでいる イ. とときどき読んでいる ウ. 今回が初めて

② 今回の入手場所はどこですか? 施設名・駅名などをお書きください。

③ 表紙及び誌面のデザインや印象はどうですか?

ア. よい イ. ふつう ウ. わるい

④ ジャンル別索引(もくじ)は使いやすいですか?

ア. 使いやすい イ. ふつう ウ. 使いにくい

⑤ 講座情報などは、分かりやすいですか?

ア. 分かりやすい イ. ふつう ウ. 分かりにくい

⑥ 「いちよう並木」で掲載されている記事で、お好きな記事がありますか?

ア. おおさかKEYワード(P3) イ. ミュージアム・トピックス(P16、17)
ウ. 講座・イベント情報 エ. 学芸員のおススメコレクション(P17)
オ. おおさか歴史探訪(P30) カ. オムリン瓦版(P29)
キ. その他(記事名を書いてください) ク. 特になし

⑦ 「いちようネット(大阪市生涯学習情報提供システム)」をご存じですか?

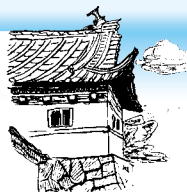
ア. 使ったことがある イ. 知っているが使ったことはない ウ. 知らない

⑧ 今後の発行・編集の参考とさせていただきますのでご意見をお聞かせください。

宛 先 〒530-0001 北区梅田1-2-2-500
総合生涯学習センター「いちよう並木」読者アンケート係

締 切 25年1月21日(月)必着(プレゼント当選者の発表は発送をもってかえます)

※応募に際し取得した個人情報は、当該プレゼントの発送以外には利用いたしません。なお、いただきましたご意見等につきましては、無記名の情報として、今後の「いちよう並木」編集の参考とさせていただきます。



おおさか歴史探訪 ⑥4

大阪の史蹟や歴史資料を毎号連続でご紹介します。

橋の真ん中で天下御免の天文観測!?! 一間長涯天文観測の地

澄み切った夜空に星々のきらめきが冴えることとなりました。今から200年ほど前の大阪には、大変な情熱をもってこの星空を観測し続けた人物がいました。その人物の名は間長涯(本名は重富、1756-1816)。近代的な天文学研究をはじめおこなった麻田剛立に師事し、兄弟弟子であった高橋至時とともに幕府の改暦事業に参画して「寛政暦」(1798年施行)を完成させました。この暦は西洋天文学に基づいてつくられた日本最初のもので、その後、明治維新まで基本とされました。

長涯の家は学者の家系でも武士でもなく、十一屋という質商でした。彼は、改暦事業の功績から直参に取り立てようという幕府からの話を辞退し、自宅の蔵の上につくった櫓や長堀川にかかる富田屋橋の上に観測器具を据え、寝食を惜しんで天文観測をおこなったといいます。橋上で観測するときには幕府が高張提灯を立てて橋を通行止めにしたとも…。長堀川はすでに埋め立てられ、富田屋橋も残ってはいませんが、右写真の石碑が長堀通となにわ筋との交差点西側にある中央分離帯内に立っています。

また長涯は、傘の紋書き職人から後に大阪蘭学の祖といわれるまでになった橋本宗吉を見出したことでも知られます。その宗吉から中天津→緒方洪庵へと続く学統が幕末・明治の日本に大きな役割を果たしたことはご存じのとおり。間長涯は学問の橋渡し役でもありました。

(大阪市教育委員会 文化財保護担当)



間長涯天文観測の地石碑
(西大橋交差点の西約50m)